

## ねじりはちまき

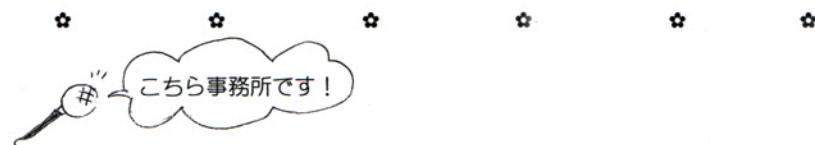
3月 弥生 啓蟄 春分の月になりました。  
5日 啓蟄です。14日 ホワイトデー。20日 春分の日でお彼岸の中日、お墓参りですね。

弥生は、旧暦3月のこと、新暦で見れば4月7日以降になります。弥生月はもともと「草木弥生月」（くさきいやよいつき）を略した言葉で、ますますとかいよいよとか意味する「弥」と、生い茂る意味を持つ「生」が、合体したもので、多くの植物が生長する頃なので、この様に名づけられたということですね。

その他、この月は桜月、花見月、嘉月、夢見月、春惜月などの異名がありますね。いづれも百花繚乱、春の喜びを感じさせる名です。  
春惜月には、過ぎゆく春を惜しむ感が込められておりますね。  
旧暦4月からは夏ですね。

春とはいえ、肌寒い日があります。  
油断は大敵です。十分にご注意下さい。

幸田 常一



お世話になっております。  
本宮市の現場は、1件は完成しお引渡しをさせていただきました。  
もう1件の現場も間もなく完成いたします。  
また、大玉村の現場は今月末には完成いたしますので、あともう少しになりました。

### 「 フ ユ ト レ 」

厳しい寒さも峠を越えて、春の気配が感じられるようになってまいりました。幸田建設様の社報を愛読の皆様方も、元気でお過ごしのことと拝察、お慶びを申し上げます。

お陰様で、私共も厳しい寒さを乗り切り、元気で暮らしております。私は、k市を毎日散歩することを日課としておりますが、散歩コースの農家の庭先に、福寿草が咲き出し、田園の畔には路の薔薇が可愛い顔を出しているのを見発見、心が温かくなるのを感じました。

2月下旬に、私がお世話になっております山岳愛好会の仲間6名と冬期トレーニング(以下「冬トレ」と書く。この冬トレは、夏山登山に備え、体力の維持増進を図ることが目的)に参加しましたので、そのことについて報告いたします。

朝7:00、計画通りk市役所駐車場を、2台の車に分乗して出発。49号国道を順調に走り抜け、中山峠のトンネルを抜けると一面の雪景色となり、雪国の会津に足を踏み入れたことを実感しました。志田浜から49号国道を右に折れ、磐越西線沿いに北上。昨年の冬トレの際の積雪と比較すると半分くらいか?所々の水田に地面が出ている所も見える程、雪が少ない。8:20、五色沼駐車場に到着。ここで、ゲレンデスキーを楽しむ3人と、スノウシュ(西洋カンジキ)で冬の景色を楽しむ3人と別れる。私はスノウシュ組に入れて頂き、8:40に出発。出発して、毘沙門沼・赤沼・みどろ沼・龍沼・弁天沼・瑠璃沼・青沼・柳沼の素晴らしい眺めを堪能して、11:00檜原湖藩物産館に到着。小休止の後、下山を開始。下山は往路路を辿り、12:00に全員元気で五色沼駐車場に戻ることができました。往路では、ガイドさんを伴った2組のグループとお遭いし、復路も雪の裏磐梯を写真に収めるグループとお遭いして、言葉を交わしました。お会いした方々すべてが、健康で幸せそうな方々ばかりでした。

裏磐梯の積雪量も、昨年の半分位か。出発直後のパンガローの屋根にも雪が無く、湖沼群のいずれも凍結しておらず、昨年までは、榛の木の実が凍結した湖面に降り積もった純白の雪に美しいシルエット(松力サを小さくしたような実に、黒く突き出た枝が純白の雪に映えて、まるで達人が画いた墨絵を見るように美しい)を見てたのに、全くその美しさを見ることが出来ないのは誠に残念。しかし、昨年まで雪に埋もれていたため気が付かずにいた、各沼毎に沼の名称を表示する標柱と一体の形で、五色沼全体の略図が設置されているのを見ました。当局の温かい配慮に、衷心から敬意を払うと共に、健康に恵まれ今年も冬トレに参加出来たことに感謝しながら家路に就きました。

K・S 記

### 室町ルネッサンスとは

「室町ルネッサンス」という言葉を聞いたことがあるだろうか。余りないと思う。小生の室町時代のイメージはどちらかというと応仁の乱など争乱の絶えない暗いイメージなのだが、今室町時代が見直されているという意見に接して以外に思ったのである。それは主に文化の面だが、よくよく考えてみると、現代に伝えられている日本文化の発祥が室町時代であるものが結構多いのに驚かされる。そこで今回はその辺のところに光を当ててみたいと思う。歐州のルネッサンスとはいささか違うとは思うが先ずは筆を進めてみたい。

では室町時代にどういう文化が発祥したのか。主なものを挙げてみると、枯山水の庭園、茶道、書院造り、水墨画などである。先ず、枯山水の庭園であるが、行かれた方もあると思うが、代表的なのは、京都の天龍寺や西芳寺、この後に建立された龍安寺の庭園である。いざれも臨済宗の禅寺である。天龍寺と西芳寺(通称苔寺)の庭園を設計したのは、国師といわれた臨済宗の夢窓疎石である。夢窓疎石は鎌倉時代に中国から伝えられた禅宗を日本化したといわれる高僧である。その庭園設計は禅の修行の場としてふさわしいものとして考えられたのであろう。天龍寺や西芳寺は、枯山水は庭園の一部であるが、龍安寺は枯山水の独立庭園である。枯山水とは何を現しているのか。枯山水は水の無い庭のことで、池や滝水などの水を用いずに石や砂などにより山水の風景を表現する庭園様式である。例えれば、白砂や小石を敷いて見立てたり、石組みをすることで滝に見立てたりするのである。この「水を用いないで水を表現する庭園様式」を「引き算の美学」と称する学者もいる。いい得て妙ではある。抽象的表現でもある。なぜこのような表現様式を思いついたのかは、禅問答のようでよく分らないが、「引き算の美学」というところにヒントが隠されているのかも知れない。例えば、日本では仏教信仰において「南無阿弥陀仏」と念佛を唱えれば救われるとされたり、最も短い詩形である「俳句」が考案されて広く親しまれたりしている。

「俳句」の世界では、表現したいいろんな思いを削りに削って17文字に集約する。それだけに17文字に表現されたものが、解釈によって如何様にも広がりを見せる。枯山水も同様のことがあるのかと思う。枯山水に何を観るか。水のない所に水を観る。そして滝や池、湖を観る。実際滝や池、湖を眼で見てそれと知るのは容易い。そうではなく、無い所にそれを心眼で観る。それが禅の修行なのであろう。つまりは、いざれの所にも宇宙生命の展開を観るといったところか。以上は私見だが、いざれにしても禅問答のようで奥深い。余談だが、天龍寺では宮本武蔵も「剣の道は人を切るに非ず」とその道を究めんと禅の修行をしたのだという。

茶道の話に移ろう。茶道(わび茶)は安土桃山時代に千利休によって完成されたといわれる。千利休は堺の禅寺に参禪し、大徳寺とも親しく交わっていたという。「茶禅一味」ともいう言葉もある。茶室の床の間には「禅語」の掛け軸が掛けられる。茶道は禅と深く関わることがわかる。そもそも最初に茶の種を中国から日本に持ち帰って植えたのが、鎌倉時代に禅宗を日本に伝えた栄西である。それから徐々に茶の栽培が普及し、茶を飲む習慣が広がっていったのである。鎌倉時代の茶道の前身は禅寺での喫茶が主だったようだ。そこで室町時代になってからの茶道だが、この頃は茶道とは言わず、「茶の湯」と言った。記録によれば、1472年に足利義政が東山に隠居所を建て、そこに書院茶の湯形式の茶室(日本最古)を造った。ここから「書院茶の湯」が展開していく。茶の湯が展開する中で、義政の茶の師匠である村田珠光が「亭主と客との精神交流を重視する茶会のあり方」を説いた。また彼は、茶道具についても高価な唐物を用いず、粗末なふれた道具を用いるようにしたのである。これが「わび茶」の源流となっていたという。次第に茶道の茶の作法が確立していく。同時に禅宗と深く関わる中で「わび・さび」という精神文化を生みだしていく。茶室も侘び茶室で、狭く静かな空間で作法に則りお点前をいただくことで、精神が落ち着き、自分自身を見直すことにもなるということか。因みに「茶道・わび茶」

と称されるようになるのは江戸時代初期という。それにしても、「もののあわれ」から「わび・さび」といった美意識は、日本人固有の美意識なのだろうか。日本人固有といつても外国人には理解しがたいというものではなかろうと思う。

次は住宅の様式、即ち「書院造り」の話である。足利義政が「書院茶の湯」の茶室を造ったということを前述したが、この書院が「同仁斎」という方丈の建物で、不十分ながらも書院造りの先駆をなしている。そして室町時代後期にかけて「書院造り」が確立していくのである。この書院造りがどういう意味を持つかというと、現代和風住宅のすべての要素を備えているからである。その要素とは、座敷、床の間、付書院、棚、角柱、襖、障子、雨戸、縁側、玄関などである。平安貴族社会での「寝殿造り」に対し、武家社会になり武家住宅としての様式、書院（畳敷きで障子窓のある書斎と居間を兼ねた部屋）を中心とした住宅が生みだされたのである。書院は客間として使われ、儀式としての対面所ともなり、やがて「座敷」については、襖絵のある部屋に上段・下段が設けられ、身分・階級差を明らかにした接見の場ともなる。今も「上座・下座」という言葉が使われるが、床の間との位置関係が身分序列の確認を促した書院造りの伝統が生きている証だといえる。

最後に水墨画について若干触れたい。水墨画といえば、何といっても室町時代後期に活躍した雪舟が挙げられる。雪舟は禪僧でもある。ここにも禪宗が関わる。雪舟は中国（明）に渡り、禪の修行と共に水墨画の画法を学ぶ。そして帰国後次第に中国の直模から脱し、これまた「引き算の美学」といるべき、独自の水墨画法を確立した。その画法が後の日本画壇に与えた影響は非常に大きいといわれる。つまり、日本の画壇史において別格の高い評価を得ており、雪舟の作品のうち6点が国宝に指定され、また昭和31年に世界平和協議会（ウイーン）は世界の文化功労者10人を選んで顕彰したが、雪舟はドストエフスキーやモーツアルトと共に選ばれ、国際的にも高い評価を得ているのである。小生も水墨画を観る機会があると、墨の濃淡のみで、よくこれまで描くものだと唸らされる。

余談だが、室町時代といえば、足利義満の庇護のもとに観阿弥・世阿弥親子が「能（当時は猿楽といわれた）」を大成させたこと、併せてこの時代に花を活ける「華道」や香を嗅ぐ「香道」もその作法が確立したことが挙げられる。誠に文化の華が一挙に花開いた観があるのである。そういうれば足利義政のもとには「同朋衆（どうぼうしゅう）」という感性の優れた文化の担い手が多く仕えていたのだという。そうして美の追求を競い合っていたのであろうと思われる。そうさせる時代の雰囲気があったのだ。思い出したが、狂言の野村萬斎が「能樂（能・狂言）は“省略の文化”である」と語っているのを聞いたことがある。「引き算」とか「省略」とかいう「美」を追求する時代の雰囲気だったのだろうか。

## 家の中の花粉症対策☆

花粉症の人がいうには、もう既に花粉が飛んでいるそうです。  
春が来るのは嬉しいけれど、花粉症の人にとっては、とてもつらい季節。  
家の中に、花粉を持ち込まないようにすることも大切ですが、持ち込んでしまった花粉は速やかに除去することが肝心ですね。  
先日、佐光紀子さんのエッセイを見ましたら、花粉症対策のひとつとして、家の中のお掃除も大切であることが書かれていました。

家の中をお掃除する時、床とか下の方はこまめにお掃除しているから気にならないけど、カーテンレールとか棚などは気になりますよね。  
蛍光灯もバチバチッとなって、改めて見てみるとホコリが溜っていたりして…せっかく下がきれいなのに、上がホコリだらけだとがっかりしますね。  
花粉は棚の上にも溜っていたりするので、そこをきちんとお掃除しなければ、1年を通して誰かが通ってちょっと風が起った時に、静かに花粉が降りてくるらしいです。  
エアコンの上、棚の上、カーテンレールの上とか、上方のお掃除をしないで放っておくと、そこから花粉だったりホコリだったり舞い降り続けて、それがアレルギーの原因になることがあるみたいです。  
毎日じゃなくても、上から下へお掃除をして花粉やホコリを落とすことは、窓を閉め切りがちの季節は特に必要なことかと思います。



## 今月の旬♡食材

### 「セリ」

水辺に密生し、競り合っているように見えることから、この名で呼ばれるようになったとか。  
鉄や食物繊維を含んでいるので、貧血や便秘に効果があるといわれています。また、ビタミン C も含まれているので、抵抗力をつけることから風邪予防になります。他にも、セリには解毒効果もあることから、薬草として用いられていました。

茹でておひたしやゴマ和え、ピーナッツ和えに。また、肉の臭みを消す効果があるので、肉を使った鍋料理などに向いています。そういえば、秋田名物のきりたんぽ鍋にはセリが入っていますね。 ^\_-^

## <会社近況>

お世話になっております。

3月に入りました。暖かい日が続いますが、朝晩はまだ寒いですね。  
どうか、お体大切にお過ごし下さい。

昨年4月に入社した大工の武田大空ですが、一身上の都合により先日  
退社いたしました。短い期間ではありましたが、皆様方には大変お世話に  
なり、ありがとうございました。

本宮市の現場をお世話になっておりますが、1件は完成しお引渡しさせ  
ていただきました。もう1件は間もなく完成しますので、今月中には引越  
しも済ませ新居での生活を始められるそうです。

こちらには、小さな可愛らしいお子さんたちがいらっしゃいます。

子ども部屋でたくさん遊んで、楽しく過ごしてほしいなあと思います。

大玉村の現場も予定通りに進んでいますので、今月中には完成いたします。こちらは住宅ではなく、カフェです。

今から完成が楽しみです。(\*^\_^\*)

.....

## タカラスタンダード・「春の大展示会」のご案内

日時 平成28年3月26日(土) 午前10時～午後5時まで

場所 タカラスタンダード(株)郡山ショールーム

(郡山市名郷田1丁目30番地)

今回も展示会に参加させていただくことになりましたので、よろしくお願ひ  
いたします。買い物のついでに、どうぞお気軽にお立ち寄り下さい。

私たちも会場でお待ちいたしております。



平成28年 3月5日発行

有限会社 幸田建設

<発行責任者>幸田久美

〒969-1204

本宮市糠沢字八幡1-1

電話、0243-44-3816

<後記>

春と秋、年2回開催の展示会。

商品を眺めながら、のんびりお茶でも  
飲みましょう。当日はご来場の記念に

粗品を準備しております。

ぜひ、お出かけ下さい。 (事務員k)